



▲大学チャペル／パイプオルガン

### 【チャペルアワー】

創立者C.K.ドージャーの遺訓“Seinan, Be True To Christ.”(西南よ、キリストに忠実なれ)は、建学の精神として受け継がれ、キリスト教を基盤とした教育をチャペルアワーなどをとおして実践しています。1954年に建設され、長年学生、教職員に親しまれた大学チャペルは、老朽化のため2008年3月に建て替わります。

### 【大学博物館】

1921年、建築家W.M.ヴォーリズの設計により、西南学院本館・講堂として建築されたこの建物は、本学院の歴史的象徴として佇んでいます。今年の5月、建築当初の姿に復元し、キリスト教やユダヤ教に関連する資料や創立者を偲ぶ資料などを展示し、大学博物館として生まれ変わりました。中でも禁教時代の「魔鏡」は、光を当てて反射光を投影しイエスの像が映し出される珍しい資料です。

### 【聖書植物園、元寇防塁遺跡復元】

本学では、聖書に登場する約80種類の植物をキャンパス内に植栽しています。実際に植物を見て、触れて、時には匂いをかいで体感することができます。また、キャンパス内で出土した元寇防塁遺跡を移設復元し、「地域の歴史」を継承しながら保存しています。学問を追究し、人間としても大きく成長する場であるキャンパスの環境を豊かなものにし、知識だけでなくゆとりや潤いのある心を育むために、キャンパス内の芸術環境整備をこれからも推進していきます。



▲大学博物館／福岡市指定文化財

## 聖書で出会った植物たちと、出会う。

Meet the Plants of the Bible



▲聖書植物園の草花



▲総合学習の授業で元寇防塁を見学する小学生

## キャンパス散策 (西南学院大学)



1916(大正5)年4月、宣教師C.K.ドージャーによって「私立西南学院」は創立されました。当初は教職員9人、生徒104人の小規模な男子中等学校でしたが、1921(大正10)年4月、「高等学部」が文科・商科をもって開設され、この時点で現在の大学の素地ができました。現在は、文科系、社会系総合大学として、7学部12学科、8研究科を設置し、学生一人ひとりの個性を育む自由闊達な校風を大切に、地域社会、国際社会に寄与する人材を輩出しています。大学が位置する西新、百道浜(もちはま)は、福岡市の副都心として発展目ざましく、経済、文化の発信拠点となっています。



▲本学に隣接するシーサイドももち



▼十字架をイメージした本館

## 【地域・社会との連携をより強く】



▲学生サポーター制度に参加した学生

### ■学生サポーター制度

福岡市教育委員会との連携により、学生たちを小・中学校に派遣し、授業の補助や教材作成の手伝いなど教育現場を体験させる学生サポーター制度を2005年度から導入しています。昨年度は34校に83人の学生を派遣しました。

### ▼西南コミュニティーセンター



▲多目的に利用できるホール

### ■西南子どもプラザ（2007年7月設置）

本学と福岡市は、地域社会の活性化、地域社会の振興のための協定を締結し、事業のひとつとして「西南子どもプラザ」を開設します。本学の教員や学生、地域ボランティアスタッフが絵本の読み聞かせや育児相談などをおして子育て支援に携わります。また、外国人乳幼児親子への対応なども行う予定です。

### ■西南コミュニティーセンター

大学と地域の交流拠点として4月にオープンしたこの建物は、ホールや多目的室、会議室を備え、海外からのお客様には日本の伝統文化を楽しんでいただけるよう、立礼式にも対応できる茶室を併設しています。さらに映画や演奏会、講演会などさまざまな芸術・文化のプログラムを提供していきます。

### ■福岡市民の祭りに参加

200万人の人出で賑わう「博多どんたく港まつり」。応援団、チアリーダー、吹奏楽団、アメリカンフットボール部の学生たちを中心に結団される「西南どんたく隊」も毎年パレードに参加しています。沿道の皆さんからの声援にチアリーダーのアクロバット演技も最高に達します。



▲「博多どんたく港まつり」パレードに参加

### 〈表紙〉

### 西南クロスプラザ

地域の方々にもご利用いただいているカフェテリア形式の学生食堂。